

高等学校地理歴史科（日本史）採点基準

2枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	(ウ)			4	
	2	ウ			5	
	3	エ			5	
	4	(1)	(ア)			5
		(2)	記号	(イ)	記号と理由がともに合っているものだけを正答とする。 理由は、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	理由	この条約では、ドイツと西欧諸国との国境維持や不可侵が定められているため。				
2	1	商品を満載した船や、橋の上まで露店が並び賑わっていることがみられ、水路を通じて中国の商業網の中核であったこと。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
	2	皇帝自らが面接を行って選抜した多数の進士出身の官僚を統率下においた独裁政治。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
	3	イ			4	
	4	(エ)			4	
	5	蘇湖（江浙）が、長江の下流にあり、宋代に稲田が開発されて中国経済の中心地域となったこと。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5	
3	1	健児			4	
	2	エ			5	
	3	エ			5	
	4	武家諸法度によって参勤交代が制度化され、妻子は江戸に常時いることになり、3代から5代までの藩主は江戸で生まれることとなった。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
	5	I → III → II → IV			5	
4	1	ポツダム宣言			4	
	2	エ			5	
	3	ア			5	
	4	ウ → ア → イ			5	
	5	アメリカが国際収支の悪化に伴い、金とドルの交換停止を行ったことから、日本は固定相場制を維持することができなくなり変動相場制に移行したため。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
5	1	地図Ⅰの大陸東岸と地図Ⅱの大陸西岸の海岸線の形がよく似ていることから、これらの大陸は、かつて一体であったものが分裂・移動して、現在の大陸分布にいたったという考え方。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
	2	エ			5	
	3	ウ			4	
	4	カ			4	
	5	記号	イ		記号と理由がともに合っているものだけを正答とする。 理由は、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	理由	原油のようなエネルギー資源を高い割合で輸出する国は輸出額が大きくなり、コーヒー豆や魚介類のような農産物・水産物を高い割合で輸出する国は輸出額が小さくなるため。				

高等学校地理歴史科（日本史）採点基準

2枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
6	1 エクメーネ	エクメネ, エクメネー もよい。	4
	2 記号 C 理由 グラフA～Cのうち、人口の減少が予想されることを示しているBが、高齢人口率の高いヨーロッパである。人口の増加と穀物生産量の増加が予想されるAとCについて、人口と穀物生産量の増加の差がより大きいAが、稲の品種改良や灌漑等で食糧増産に成功したアジアである。そして、大規模な企業的農業を行い、移民を受け入れるなど人口増加率も比較的高いCが北アメリカである。	記号と理由がともに合っているものだけを正答とする。 理由は、内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	9
	3 中国 インド	インドと比較すると、中国は、15歳未満の人口が1970年から急激に減少しており、1970年代末からの「一人っ子政策」の影響で高齢化が急速に進行し始めている。 中国と比較すると、インドは、第1次産業人口の割合が高いため子どもは重要な労働力であり、乳児死亡率も高いことから、人口抑制があまり進んでいない。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。
7	近代、現代などの時代区分の持つ意味、近現代の歴史の考察に有効な諸資料について扱うこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
8	日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係、産業経済の発展、庶民の台頭と下剋上、武家文化と公家文化のかかわりや庶民文化の萌芽に着目させる。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
9	近世の村請制とは、豊臣政権の兵農分離政策と検地を通じて、年貢、諸役の納入や領主法令の順守などを村単位で請け負わせる農民統治の制度。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
10	1 資料Ⅰの大刀は熊本県から、資料Ⅱの鉄剣は埼玉県からそれぞれ出土しており、ヤマト政権の勢力が関東地方から九州まで及んでいたこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6
	2 文字をもたなかった日本では、中国との外交上の必要性から、漢字・漢文による外交文書を作成していたが、国家の形成期になると、地方の豪族が自ら王権とのつながりを示すことにも漢字が使われた。律令体制が確立すると、政府の命令、役人同士の連絡も、文書によってとりおこなわれるようになるなど、漢字と政治との関わりが一層深まっていったこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	14